

## 平成 29 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 議事録

日 時：平成 29 年 8 月 28 日（月） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで

場 所：習志野市役所市庁舎 3 階 大会議室 B・C

委員出席者：廣田委員（会長）、佐々木委員（副会長）、田中委員、相原委員、  
清水委員、小川委員、金子委員、田村委員、酒井委員、橋本委員、  
田所委員、細川委員、君塚委員、越智委員、小池委員

事務局出席者：眞殿政策経営部長、鈴木政策経営部次長、江川総合政策課長、  
奥山総合政策課主幹、伊藤副主査、渡部副主査、播摩主任主事

議 事：前期第 1 次実施計画・第 1 次アクションプランの実績の報告について  
その他

議 事 録：

### 習志野市前期第 1 次実施計画の実績について

酒井委員) 2-3-5 の「ごみゼロ運動参加者数」は 5 月 30 日の実施だけか。

総合政策課長) 詳細確認して後程お答えする。

酒井委員) その実施した日だけ綺麗になっているので、その前後いろいろな日に実施したほうがよいのではないか。

総合政策課長) 鷺沼地区で言うと、地域の方がごみゼロを実施する日と、地域担当制の職員が実施する日をずらすような形の体制をとっている。委員のご要望は担当課に伝える。今年度のごみゼロ運動は 5 月 28 日に実施していると確認した。

相原委員) 3-4-3 「平和啓発の促進」の被爆体験講話を実施した小学校 2 校、中学校 2 校はどこか。

総合政策課長) 確認して後程お答えする。

越智委員) 2-2-3 「橋りょう老朽化の修繕率」について、最初の 7% の数字はどういう根拠なのか。

総合政策課長) 「橋りょう長寿命化修繕計画」に挙げている橋が 14 あり、14 の橋のうち 1 つの橋を対象として 7% と設定した。

金子委員) 「橋りょうの老朽化修繕率」について、老朽化していて安全性は大丈夫なのか。また、新京成が同意しないというのはどうしてなのか。

総合政策課長) 鉄道の上となると、施工は鉄道会社に委託する形になる。事業費等についての委託の協議調整が遅延している、と担当課から確認している。

金子委員) 安全性に問題はないのか。

総合政策課長) 安全性について一例を示すと、昔の構造基準で作った橋が現在の構造基準に合わない橋があるが、各橋を点検して、橋の強度が不足している橋については修繕で対応している。

小池委員) 2-3-3 「公園・緑地の面積」であるが、未達成の理由は、予想よりも人

## 平成 29 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 議事録

口が上回ったことと、その用地の取得等の対策が後手にまわったということであると思うが、これについては、目標値と実績値の乖離が大きいのので深刻にとらえる必要があると思う。これからについてどう考えているか。

総合政策課長) まず、目標値の「11.3㎡」の根拠は、今の「緑の基本計画」の前の計画の数値である。現在もそのままの目標を継続していて、人口が増加したことにより、乖離が生じてしまっているというのが現状である。担当課としては、公園・緑地の面積を課題として捉えているということであった。

小池委員) 3-1-1「保育所受け入れ児童数」について、行政としては枠を増やしたということであるが、市民からすると、待機児童数がどれだけ減るかということが大事であり、その数字を目標にするとわかりやすい。待機児童の問題は大きな問題で深刻である。これから若い世代がどこに住もうかと考える時に、待機児童がいるかいないかは、非常に大きなポイントである。そういう中で、習志野市がこの待機児童の問題について、手厚く取り組んでいくことによって、習志野市の人口減少に歯止めがかかることになると思う。ぜひ、この点について、積極的に取り組んでもらいたい。

政策経営部長) 「保育所受け入れ児童数」については、目標値を達成しているが、実際には待機児童が今も残っている。目標を達成したとはいえ、この事業については、成果指標の立て方自体に問題があると思うので、成果指標を「待機児童数」に改めることを担当課と協議する。

小川委員) 1-1-4「障がい者（児）支援の推進」、3-2-1「幼児教育の向上」、3-2-2「学校教育の向上」の3つを例に挙げると、働く意欲のある障がい者が、就職に向け就労支援を受けた実人数は増えているが、中身はどのようなのか。人数と中身・実態は別物ではないかを感じる。幼児教育の向上・学校教育の向上に関しても、先生方の研究会等の参加者数が増えたからといって、教育の向上につながっているわけではないという現実もあると思う。施策評価表は、中身と実態は比例しないということで捉えてよいか。

政策経営部長) 今の3つについては、いずれも、中身を数値で示すことが難しい。例えば、「障がい者（児）支援の推進」については、就労支援を受け、就労支援が有効なもので、そこから現実何人が就職できたか、それこそが成果指標であるべきで、何人受けたからいいというものではない。成果指標の立て方について、担当課と協議をしていきたい。

小川委員) 人数と中身が比例するように、しっかり検討していただきたい。

総合政策課長) 相原委員の先程のご質問について、被爆体験講話を実施した小学校2校は、実花小学校と大久保小学校、中学校2校は、第六中学校と第四中学校である。学校の指定については、学校の要望で行っている状況である。

習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略第 1 次アクションプランの進捗状況について

田村委員) 目標 3 の 3 「創業塾受講生の市内創業事業者数の増」について、まず、この創業塾は、商工会議所を窓口とした創業塾と同じものと考えてよいか。また、実績値が非常に少ないが、これは、そもそも創業塾の塾生が少ないのか、それとも、創業者が少ないのか。さらに、創業塾の募集の PR・周知はどのようにしているのか。

総合政策課主幹) 詳細確認して後程お答えする。

酒井委員) 2 ページの「保育定員数」の考え方は、市立の保育所に限った目標か。

政策経営部長) ここでいう「保育定員数」とは、習志野市立の保育所と私立の認可保育所の両方含んでいる。理由の欄の、習志野市立の菊田保育所については、平成 28 年度に廃止され、145 名減となり、私立の谷津みのり保育園が設立され、138 名増で、差し引き 7 名減という実績である。しかし、平成 29 年度以降、設立となる保育所があるため、実績は伸びていく方向である。

小川委員) 2 ページの「家庭教育への支援の充実」の 1) について、理由の「参加者の受け止めによる差と思われる。」とは、どう捉えたらよいか。

総合政策課主幹) この実績値は、「怒鳴らない子育て練習法」というプログラムがあり、そのプログラムをこどもセンターの職員が受講し、その職員が講師となり講座を行っている、その講座後にとっているアンケートの結果である。下回った理由としては、その講座の主旨がうまく伝えられなかったことが原因であると考える。

廣田会長) 目標に対するアンケートの仕方に問題があるのではないかと。「自信がついたか」ではなく、「叱らないですむ子育てについて理解ができたか」などにするとよいのではないかと。アンケートの取り方について善処してもらおうということだが。

小川委員) 講師の選定等もぜひご検討いただきたい。

総合政策課主幹) 先程の創業塾のご質問については、商工会議所に委託して実施している事業である。受講者数は減少傾向にある。PR については、商工会議所や市のホームページ、ツイッター、チラシ、広報、掲示板、新聞広告等で行っている。

その他

総合政策課長) その他として、次回の長期計画審議会は、年明け 2 月上旬を予定している。具体的な日時については、改めて事務局より御連絡差し上げる。

総合政策課主幹) ごみゼロ運動の件については、5 月 28 日に市内 16 連合町会で実施。平成 28 年度のごみゼロ運動は、平成 28 年 5 月 16 日から平成 29 年 3 月 29 日まで行ったものを集計している。

## 平成 29 年度第 1 回習志野市長期計画審議会 議事録

- 越智委員) まちづくり会議でごみゼロ運動をしているが、そういうものは集計に含むか。
- 総合政策課主幹) 含んでいる。
- 佐々木副会長) 全体をとおして、目標値を達成していないものの理由に関しては、理由をもう少し詳細に記載するよう様式を改善したほうがよいのではないか。
- 総合政策課長) まとめ方等について、本日頂戴した様々なご意見を参考に再度検討してまいりたい。
- 廣田会長) 第 2 次実施計画の進捗管理、後期基本計画の策定に向けて、参考にしてもらいたい。

以上